

# 静岡県学校施設中長期整備計画

—静岡県学校施設個別施設計画—

(その2)

令和2年3月

静岡県教育委員会

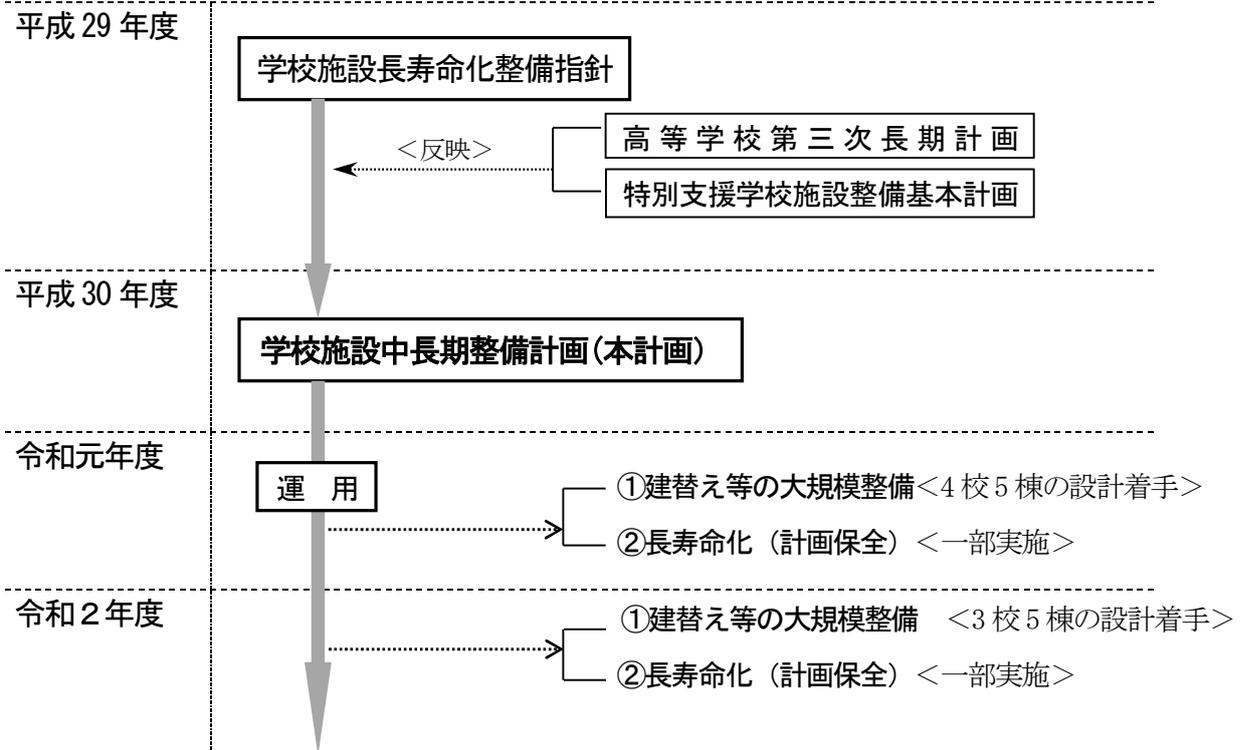
静岡県学校施設中長期整備計画（個別施設計画）  
目 次

1	計画の位置付け・計画期間	1
2	計画対象建築物	2
3	整備方針	3
4	建替え	4
5	長寿命化（計画保全）	4
6	中長期の施設関連経費試算と整備手法	6

# 1 計画の位置付け・計画期間

今後30年間にわたり、着実に老朽化対策を実施するため、平成29年度に策定した「学校施設長寿命化整備指針」をもとに、「高等学校第三次長期計画」及び「特別支援学校施設整備基本計画」との整合を図りながら、具体的・実効的な内容を盛り込み、学校施設の整備・保全に関する基本方針を定める。

## <計画の位置付けと老朽化対策の執行・運用イメージ>



## 2 計画対象建築物

学校施設の総量は膨大で、延べ床面積にして152万㎡、県有建築物の約4割を占める。そのうち、本計画対象は、同窓会館等の寄贈建物、並びに部室や倉庫等の小規模建築物を除く138万㎡とする。

この計画対象のうち、生徒等が長い時間を過ごす校舎と体育館を主な整備対象（799棟、延べ118万㎡、計画対象の85%）とし、その内、老朽化による危険性と施設関連経費のバランスを考慮し、中長期の視点で建替えや改修を実施する主な建物（メイン棟）と、メイン棟の整備に応じて柔軟に整備内容を決定する建物（サブ棟）に分類して計画を策定する。その他、実習棟等は、必要度と効果等を考慮し、個別に整備時期と内容を検討する。なお、メイン棟は、計画対象の73%を占めている（316棟、延べ101万㎡）。

<表> 学校施設の総量（耐震基準区分・メイン区分）

建物区分	耐震区分		旧耐震				新耐震				合計(127校)							
			メイン棟		サブ棟		メイン棟		サブ棟				メイン棟計		サブ棟計			
	棟数	延床面積(千㎡)	棟数	延床面積(千㎡)	棟数	延床面積(千㎡)	棟数	延床面積(千㎡)										
計画対象	792	738	(195)	(552)	(268)	(99)	810	645	(121)	(462)	(215)	(68)	1,602	1,383	(316)	(1,014)	(483)	(166)
校舎	310	483	125	427	185	56	240	434	79	389	161	46	550	917	204	816	346	102
体育館	153	167	70	125	83	43	96	95	42	74	54	22	249	263	112	198	137	64
その他	329	88					474	116					803	203				
計画対象外	489	49					925	89					1,414	137				
部室	62	7					149	21					211	28				
その他	427	42					776	67					1,203	110				
総保有量	1,281	787					1,735	734					3,016	1,521				

<学校施設の総保有量・計画対象・整備対象イメージ>

メイン校舎	204棟	82万㎡	53%	
メイン棟（主な校舎と体育館）	316棟	101万㎡	66%	（メイン体育館）
整備対象（校舎と体育館）	799棟	118万㎡	77%	（サブ棟）
計画対象	1,602棟	138万㎡	90%	（実習棟等）
総保有量	3,016棟	152万㎡	100%	（部室等）

### 3 整備方針

#### (1) 主な建物（メイン棟）の老朽化対策の考え方

施設関連経費の縮減と平準化を図るため、原則として、比較的老朽化が進んでいない建物は、長寿命化（計画保全）する。また、築年数が長いなど老朽化が進んでいる旧耐震基準の建物は、建替えとするが、構造や敷地活用等が良好なものや長期的・将来的な視点から建替え時期の調整が必要なものなどは、長寿命化（計画保全）を行う。

建替えをする建物は、安全性の確保と、事後保全費用や維持管理費用の抑制を図るため、速やかに建替えを進める。長寿命化（計画保全）をする建物は、健全に築後 80 年使用することを目標に、施設関連経費が低廉となるように適切に計画保全を実施していく。

#### (2) 主な建物（メイン棟）の老朽化対策の実施時期

原則として、児童・生徒等が特に長い時間を過ごす校舎の建替えを優先し、その後、体育館の建替えを実施する。ただし、各学校の学校運営状況や周辺環境、施設の劣化状況などにより、整備時期は随時見直していく。

また、高等学校の第三次長期計画以降の再編等や、特別支援学校の新設等を考慮しつつ、施設関連経費を平準化するため、整備時期と整備量の調整を行う。

校舎については、築 70 年を超えないよう毎年 5 棟程度を目標に建替えを進める。なお、建替えるまでは、適正な保全を行い（主に屋上と外壁）、建物の安全性を確保する。

#### (3) それ以外の建物（サブ棟）の老朽化対策の方法

校舎及び体育館のうちサブ棟とした建物は、主に渡廊下や武道場等の建物であり、メイン棟を整備する際に、建物や敷地の利用状況等により、付随して整備を行う。その間の保全方法は、事後保全を主体とするが、安全性を損なわないよう維持管理を行う。

## 4 建替え

### (1) 実施順位

建替えをする校舎のうち、高等学校の第三次長期計画の対象校など今後の学校の方向性等が決まっている学校を除き、老朽化が進み、対策の優先度が高く、整備内容等についての合意形成が整った学校から、次年度の整備対象校を決定する。

### (2) 実施方法

特に老朽化が進んでいる学校については、敷地全体に関する将来的な整備の方向性を見込んだモデルプランを作成し、関係各課や学校関係者と意見交換を行い、建物配置や整備内容等の合意形成を進めていく。

その際、経費や学校運営上の負担が少なくなるよう、原則として仮設校舎を用いずに工事を行うとともに、建替え後の学校全体の校舎規模が、生徒数の見込等に応じて適正となるよう建替え校舎の規模を再検討する。

## 5 長寿命化（計画保全）

### (1) 実施順位

老朽度を踏まえて実施校や実施内容を決定する。

### (2) 実施方法

建物を長く使用するために必要な修繕や改修を、学校運営に支障を及ぼさずに実施できるようメニュー化して計画的に実施し、築後 80 年間使用することを目標とする。

長寿命化 （計画保全） メニュー	① 20 年毎	外装修繕（外壁、屋上防水）
	② 40 年毎	設備更新（受変電） トイレ改修（配管更新、乾式・洋式化） その他設備改修（E V 等）、内装改修（床、壁）

### <老朽化対策が必要な主な校舎一覧>（詳細は「別表」のとおり）

第Ⅰグループ(21 棟)	直近着手予定・着手済・完了済
第Ⅱグループ(93 棟)	今後、老朽化対策を検討するもの（昭和 56 年以前建築）
第Ⅲグループ(11 棟)	老朽化対策単独では実施しない （他計画による整備とあわせて老朽化対策を実施）

※ 第Ⅰ～Ⅱグループに入っている校舎も、今後の生徒数や再編等の見通しにより第Ⅲグループに振り分ける場合もある

**(別表) 老朽化対策が必要な主な校舎一覧 全 125 棟 (旧耐震基準のメイン校舎)**

令和 2 年 3 月現在

※第Ⅰ～Ⅱグループに入っている校舎も、今後の生徒数や再編等の見直しにより、第Ⅲグループに振り分ける場合もある

**第Ⅰグループ (21 棟) ; 直近着手予定・着手済・完了済**

高等学校(棟名称)	時期	手法
裾野 (特別教室棟)、清水東 (管理教室棟)、藤枝東 (普通特別教室棟)、島田商業 (教室棟)、掛川西 (普通教室棟)、新居 (普通教室棟)、以上 6 棟	実施済 (大規模改修)	長寿 命化
沼津工業 (普通教室棟)、清水東 (特別教室棟)、焼津水産 (管理教室棟)、磐田南 (管理教室棟、特別教室棟)、以上 5 棟	着手済 (R1～)	建替 え等
沼津商業 (管理教室棟、普通教室棟)、藤枝東 (管理教室棟)、島田 (管理教室棟、特別教室棟)、以上 5 棟	着手予定 (R2～)	
富士宮東 (管理教室棟)、富士宮北 (普通教室棟)、清水西 (特別教室棟)、焼津中央 (管理教室棟)、浜松工業 (管理棟)、以上 5 棟	R3 以降	

**第Ⅱグループ (93 棟) ; 今後、老朽化対策を検討するもの**

エリア	高等学校(棟名称)	特別支援学校(棟名称)
東部	下田南伊豆分校 (特別管理教室棟)、松崎 (教室棟、管理教室棟)、稲取 (管理教室棟、特別教室棟)、熱海 (管理棟、一般教室棟)、伊豆総合土肥分校 (普通教室棟)、韮山 (管理昇降棟)、伊豆中央 (校舎棟 1)、田方農業 (本館、北館)、三島北 (教室棟)、御殿場 (管理特別教室棟)、御殿場南 (管理教室棟、特別教室棟)、裾野 (管理棟)、沼津東 (管理棟、教室棟)、沼津工業 (管理教室棟)、吉原 (校舎)、富士 (管理教室棟)、富士東 (教室棟、管理棟)、富士宮東 (特別教室棟)、富士宮北 (管理教室棟)、富士宮西 (南棟、北棟)、以上 28 棟	沼津視覚 (南館、本館)、沼津聴覚 (教室棟、管理棟)、沼津特支 (中学部棟、小学部棟)、以上 6 棟
中部	清水西 (管理教室棟)、清水南 (管理教室棟、特別教室棟)、静岡城北 (教室棟)、静岡東 (特別教室棟、管理棟)、静岡西 (管理教室棟)、焼津中央 (特別教室棟)、焼津水産 (特別教室棟)、藤枝北 (教室棟、管理教室棟)、島田商業 (管理特別教室棟)、川根 (教室棟、管理棟)、榛原 (第 1 棟、第 2 棟)、以上 16 棟	静岡視覚 (管理棟、学習棟)、静岡聴覚 (学習棟、管理棟)、静岡北特支 (管理小学部棟、中高等部棟)、中央特支 (管理教室棟、管理棟)、吉田特支 (本館校舎)、以上 9 棟
西部	掛川西 (管理特別教室棟)、掛川工業 (管理教室棟、特別教室棟)、小笠 (管理棟、特別教室棟)、袋井 (教室棟、管理棟)、袋井商業 (特別教室棟)、磐田北 (特別教室棟、普通教室棟)、磐田農業 (管理教室棟)、磐田西 (本館、普通教室棟)、天竜春野校舎 (校舎)、浜松南 (管理教室棟、特別教室棟)、浜松湖東 (普通特別教室棟)、浜松東 (管理及び普通教室棟、特別教室棟)、浜松工業 (第 3 棟 (南館))、浜松城北工 (管理教室棟)、浜北西 (本館)、新居 (管理棟)、湖西 (校舎 1)、以上 24 棟	浜松視覚 (本館)、浜松聴覚 (管理教室棟、普通特別教室棟)、袋井特支磐田見付分校 (校舎)、天竜特支 (特別教室棟、本館管理棟)、浜松特支 (本館、南館)、浜松特支磐田分校 (校舎)、浜名特支 (旧校舎)、以上 10 棟

**第Ⅲグループ (11 棟) ; 老朽化対策単独では実施しない (他計画による整備とあわせて老朽化対策を実施する)**

高等学校(棟名称)	特別支援学校(棟名称)
伊東 (校舎)、伊東商業 (特別教室棟)、沼津西 (特別教室棟)、沼津城北 (普通特別教室棟)、金谷 (普通教室棟、管理教室棟)、横須賀 (本館 (南校舎)、教室棟 (北校舎)) 池新田 (特別教室棟)、以上 9 棟	東部特支川奈分校 (校舎棟 (東館)、校舎棟 (西館))、以上 2 棟

## 6 中長期の施設関連経費試算と整備手法（別図「試算1」「試算2」）

以上の基本方針を踏まえて、今後の施設関連経費を試算した。試算1は、老朽化対策を平準化して実施する場合、試算2は、老朽化対策以外の整備事業も含めて経費を平準化する場合である。

また、この試算は、一定の条件下で行ったものであるため、物価上昇、実際の整備事例、施設関連経費の平準化等を鑑みて、毎年、試算を行う。（試算条件等は、別図に記載）

なお、この試算では、高等学校の第三次長期計画に基づく学校の減少を反映させているが、計画期間以降、生徒数の減少に伴い、より良い教育環境の向上を図るため、更なる新構想高校の整備が見込まれることから、状況に応じて、老朽化対策の前倒しや内容を見直すこととする。

